

c-japan2020 解釈表

中分類			小分類		
分類	ラベル	解釈テキスト	分類	ラベル	解釈テキスト
A	都市部の単身層	人口密度が非常に高く、20～40代のマンション住みの単身層が中心のエリア。IT、金融、不動産といった都市型のビジネス就業者が多く、平均年収額と1,000万円を優に超える高所得層が混在する。外国人も多い。	A01	都心のセレブ	都心の一等地に現れる屈指の繁華街、裕福層エリア、年収1,000万円以上の比率が非常に高く、金融・不動産など都市型ビジネスが多い。地価も飛びぬけて高い一等地で、ハイブランド店舗が多く立ち並ぶ。所有車は、ポルシェやフェラーリをはじめとする超高級輸入車など
			A02	独身貴族	主要都市に見られる年収500万円程度および1,000万円以上の高所得層が入り混じった独身貴族エリア。外国人比率も非常に高いのが特徴。単身層向けのファストフード、フィットネス、語学スクールなどが多く見られる。嗜好性のある高級車の所有が見られるのも特徴的。
			A03	都市の単身若年層	東京を除く、主要都市の中心部にあり、20～30代の単身働き盛り層向けの、エステやネイルサロン、旅行代理店といったサービス業が多くみられるエリア。職業としても第三次産業就業者が多く、所得はそれほど高くない。
			A04	利便性の良い都心の住宅地	主要都市の中心部周辺のうち、鉄道駅沿線など交通利便性のよいエリアに居を構える単身ビジネスパーソン。情報通信系や不動産系の仕事に就業している特徴が強い。ベッツやBMWなど輸入車を中心に車の保有比率も高め。
			A05	コストの良い賃貸住宅	駅から少し離れたものの都市部のコストパフォーマンスの良い物件に住む単身層。まだ所得の多くない20～30代の若手を中心に、小売業やサービス業従事者が多い。車の所有比率は低く、カーシェアサービスが見られるのも特徴。
			A06	都心の学生街	10～20代を若年層を中心とした都市部に見られる学生街。居酒屋を含む飲食店や宅配専門店舗が多く、アルバイトを含む飲食店への就業者が圧倒的。収入は総じて低く、車の所有率は非常に低い。
B	都市部のファミリー	都市部エリアの～50代の現役層を中心とした核家族ファミリー層。地価も高く、世帯年収700万円前後～裕福層が住む高級住宅街まで混在する。第三次産業への就業者が多く見られる。	B01	都市部のニューファミリー	主要都市部のマンション住みのニューファミリー層で特に東京都にも多く見られる。年収も中流～裕福層まで幅広く、職業は情報通信、金融、不動産業が中心。レクサスや輸入高級外車比率も高め。
			B02	高級住宅街	都会の裕福層が集まる高級住宅街。年収傾向は最も高く、優に年収1,000万円を超えるファミリーが集まり、居住形態も賃貸から持ち家まで様々。レクサスや輸入高級外車比率が高い。リクゼーションやネイルサロン、スイーツ店などが出店する。
			B03	近郊暮らしの高所得層	都心から少し離れたエリアに居を構える裕福なファミリー層。高所得層が多く、持ち家や賃貸を問わず、マンションに加えて戸建ての割合も高い。進学塾など習い事教室の出店が多くみられるエリア。
			B04	郊外のファミリー	主要都市部に通勤可能な郊外の分譲マンションを購入したニューファミリー。年収は700～1,000万円の中流階級が多く住む、3～5名程度の核家族。ファミレスやシネコン、子ども用品店など家族で楽しめる店舗施設が多く見られるエリア。
			B05	戸建て持ち家ファミリー	全国の地方都市部に見られる戸建てを購入したニューファミリー層。年収は500～1,000万円の中流～高所得層。職業は電気・ガス・水道などのインフラ、教育・教育支援、医療福祉系への就業者が多くみられる。アムニースメントパークやショッピングモールなど大型のファミリー向け施設が近接する。
C	近郊の成熟した住宅街	都市近郊に位置する居住期間も比較的長い成熟した住宅街。核家族世帯が多く、年収は400万円台が最も多い。勤務者に合わせて自家用車は複数台所有も見られる。	C01	下町	都市近郊の下町エリアに点在する住宅地。50歳代の構成比が最も高いものの若者、高齢者も混在している。公営や賃貸住宅住ましのサービス業就業者が多い。
			C02	成熟した近郊の賃貸住宅	人口密度の高い成熟した住宅街。賃貸住宅が多くみられる。核家族ではあるものの、ニューファミリーから成熟家族まで混在する。小売業勤務者が多く、年収も低～中流層。ネットカフェやサイクルショップ、中古車販売店などが点在する。
			C03	物流要衝近くに住む成熟家族	東名阪を中心とした物流要衝の都市部に見られる成熟家族。運輸・製造業従事者が多いのも特徴。年齢や世帯人数も幅広く、自家用車も軽を含めた複数台持ちも見られる。
			C04	旧市街	旧城下町や門前町など旧市街・繁華街性がみられるエリアで、小売業や宿泊・飲食業のお店が多く見られる。また地方の中核都市も含まれ、50歳以上の年齢層が多く居住する。
			C05	マイホーム成熟ファミリー	北海道や東北、九州地方などにも多く見られる地方都市の成熟家族。居住形態は戸建ての持ち家。人口総数は最多、世帯数および該当する町丁目数もトップクラスのクラスター。
D	豊かなセカンドライフ	年収、貯蓄ともに比較的に豊かな子育て後、リタイア後のセカンドライフを楽しむ世帯。戸建ての持ち家率が高い。車保有率の場合は、輸入車の比率が高いのが特徴。	D01	子育てを終えた豊かなセカンドライフ	40代以上の親世代と、10代の学生を抱える主要都市部近郊～郊外を中心にみられる成熟ファミリー。マイホームを構え、所得にも余裕がある比較的に余裕のある高所得世帯。レクサスなど高級車の所有傾向がある。
			D02	老後の豊かなシニアライフ	シニア夫婦または高齢親と一緒暮らしするシニア家族が中心のエリア。主要都市部の近郊～郊外に戸建てを構え、老後の楽しみを謳歌する世代とまだまだ現役なアクティブシニアが混ざり合っている。
E	公団住まい	公営住宅に住む世帯が非常に多く、一方で失業率も非常に高く、年収300万円以下の層も多い。ディスカウントストアやホームセンターが多数見られる。	E01	都市部の公営住宅	公営マンションや団地住まいのシニアが見られる都市部の公営住まい。完全失業率が高いため、所得は300万円以下と低い傾向。人口・世帯数ともよく見られるエリアの一つ。
			E02	地方の公営住宅	60歳以上の長屋住まいのシニア層が多いエリア。完全失業率も非常に高い。所有者は軽自動車が多く、このエリアには100円ショップやディスカウントストア、ホームセンターなどが多く見られる。
F	公務・インフラ	公務員や電気・ガス・水道といったインフラ事業に従事する。社宅住まいの単身層を中心としたエリア。公務員宿舎なども散見される。業率が非常に低いのが特徴。	F01	公務・インフラ就業者	公務員や電気・ガス・水道といったインフラ事業に従事する。社宅住まいの単身層を中心としたエリア。公務員宿舎なども散見される。業率が非常に低いのが特徴。
G	ニューファミリー	10歳未満の子供と、30～40代の親世代が多くみられるセグメント。住宅購入前の借家住まい圏と、念願のマイホーム購入した中流層が混在するエリア。国産車所有率および軽自動車との複数台保有率も高い。	G01	マイホーム予備軍	特に地方の都市部にも多く見られるニューファミリー。乳幼児と30代の比率が最も高く、賃貸マンション住まい。年収も低め。国産の軽自動車保有率が高く、このエリアにはディスカウントショップや子供用品店、住宅ショールームなどが見られる。
			G02	リッチなニューファミリー	工場勤めが特徴のニューファミリー。外国人比率も高い。年収は500～1,000万円の中流層がメイン。所有者は主に30代と40代。軽自動車を含めた複数台数所有も特徴的。
			G03	育ち盛りのマイホームファミリー	全国の沿岸部や主要高速道路周辺などに散見されるのが特徴。マイホームを購入し、小中学生の育ち下がりの子供がいる。このエリアには、食べ放題店舗や書店、ドラッグストアなどが多く見られる。
			G04	地方の工場勤め	乳幼児と20～40代の比率が高い。地方の子育て真っ盛りファミリー。戸建ての賃貸住まいが多く、年収も低め。2次産業と医療・福祉従事者が多いのが特徴。
H	製造業就業者	20～30代の単身製造業従事者が多く、外国人比率がかなり高いのが特徴で借家住まい。年収は高くない。このエリアには定食屋やカレー、ラーメンといった飲食店や、パチンコ、釣具店などの趣味のお店が多い。	H01	製造業就業者	20～30代の単身製造業従事者が多く、外国人比率がかなり高いのが特徴で借家住まい。年収は高くない。このエリアには定食屋やカレー、ラーメンといった飲食店や、パチンコ、釣具店などの趣味のお店が多い。
I	地方の単身層	20～30代、および50歳以上が中心の、借家または社宅住まいが多い地方の単身層。所得は300万円以下～400万円台が混在。軽自動車の所有比率が高い。	I01	地方の単身働き盛り	製造・運輸業を中心に二次産業従事者が多い。地方の単身働き盛り。外国人比率も高い。保有車両は軽自動車が多い。
			I02	地方の高齢一人暮らし	50代以降の比較的高齢層の多い単身層エリア。小規模の小売りや飲食店などの三次産業や、福祉従事者が多いのが特徴。
J	地方の大家族・シニア	郊外や地方に出現する大家族、シニア世帯のセグメント。5人以上の3世代家族と、老夫婦2人住まいが混在し、一部の地域では過疎化が進んでいる。製造業就業者の割合が高いのも特徴。	J01	郊外の大家族	地方都市部の郊外に広がる年収～1,000万円(以内)の中流大家族。10代の食べ盛り世代を育てる40代の親とその祖父母の3世代。コンビニや食べ放題店舗などが多い。
			J02	子供の多い大家族	幼時～高校生の複数人の子育てを行う地方の核家族。主要都市近郊にはあまり見られず、東北、四国、九州地方に多く見られる。低年収の世帯が多く、スーパーマーケットや生鮮食品店が多いのが特徴。
			J03	工場勤めの大家族	二次産業の従事者を中心とした、子供たちが巣立った50代夫婦または親子世代で暮らす、地方田舎の持ち家成熟家族。
			J04	暮らし豊かな大家族	子供たちが巣立った親と祖父母、親族といった大人数で暮らす、地方都市郊外の成熟家族。またたき働き盛りで、年収は500～1,000万円の中流家庭。
			J05	田舎の大家族	55歳以上の親子世代で構成される地方田舎の成熟大家族。東北地方や北陸、中国地方に多く存在し、過疎化が進んでいる。
			J06	高齢者夫婦	子育てが完了し、老後のために働く世代と、リタイアして老後の生活を謳歌する世代が混じったエリア。ともに2人住まいがほとんどで、日本全国にわり広分布し、かつ最も多いエリア。年収も低い傾向がある。
K	農村	農業を中心とした一次産業従事者がほとんどの地域。55歳以降の2人暮らしまたは親子で暮らす世帯が多い。人口密度が最も低く、過疎化が進んでいる。保有車両は軽自動車比率が最も高いエリアでもある。	K01	農村	農業を中心とした一次産業従事者がほとんどの地域。55歳以降の2人暮らしまたは親子で暮らす世帯が多い。人口密度が最も低く、過疎化が進んでいる。保有車両は軽自動車比率が最も高いエリアでもある。